

## 15

## 荻野吟子の医術開業免状下付願

— 東京都公文書館蔵「明治十八年回議録」より —

樋口 輝雄

日本歯科大学新潟生命歯学部 医の博物館

わが国の公許女医第一号の荻野吟子については、すでに諸家による詳細な講究がある。東京都公文書館には自筆の「医術開業免状下付願」と前期ならびに後期試験及第証の写しが保存されている。原議書は「医術免状下付ノ件荻野吟子外二名」、簿冊表題は「明治十八年第五類回議録医術卒業証免状願衛生課」である。ただし東京都公文書館情報検索システムのデータベースは、萩野(ハギノ)と姓を誤入力している。内務卿山縣有朋宛の願書には「医術開業免状御下附願/東京本郷区湯島三組町八十四番地寄留/埼玉県下武蔵野国旛羅郡俵瀬村/平民荻野保平妹/荻野吟子/安政四年十一月生/私儀今般湯島三組町八十四番地ニ於テ医術開業仕度ニ付免許状御下附被成下度別紙前期及ヒ後期及第之証写相添奉願上候也/明治十八年五月廿二日/右萩野吟子」と記載し、本郷区の衛生委員と区長が連署押印した。東京府では同時期の出願者の願書などに上申書を添えて、1885年(明治18)6月12日付で内務省に送達。内務卿官房長からは6月29日付で「……御上申相成候萩野吟子外二名へ下付可相成医術開業免状前書之通及御送付候条本人へ交付方御取計有之度此段申進候也」との書面とともに、萩野吟子、田中八郎、川田守衛の三名分の医術開業免状が送付された。

『官報』1885年(明治18)12月14日号は「医術開業免状ヲ授与シ医籍ニ登録シタル人名ヲ左ニ広告ス」と試験及第59, 東京大学医学部卒業50, 特許(甲種)医学校卒業60, 計169名のほか、歯科5, 限地開業3名の氏名族籍を掲載している。同広告(公告)の末尾に「明治18年12月内務省」とあることから、成書は萩野の医籍登録を12月とするが、官報の同号に掲載されたのは、同年6月9日以降の登録者であり、萩野吟子らは明治18年6月29日付で医術開業免状を下付されて医籍に登録された。また他の諸資料から勘考すると登録番号は第416号であろう。

萩野が添付した前期試験及第之証(写し)は明治17年9月22日付、後期試験及第之証(同)は18年4月1日付で、後期の試験委員は、外科学・外科臨床実験=片山芳林、内科学・内科臨床実験=田澤敬興、外科学・薬物学=古川栄、内科学・眼科学・産科学=伊勢錠五郎、外科臨床実験=三瀬謙三、内科臨床実験=新宮涼園だった。また生年月日は、「嘉永4年(1851)3月11日」が定説となっているが、免状下付願や及第証にはすべて「安政4年(1857)11月」と記載している。1892年(明治25)の『明治医家列伝第一篇』所収の「萩野吟子孺人(孺人ヵ)之伝」は生年月を嘉永6年11月とし、「……久シク子宮系統ノ大患ニ罹リ大学第一院(東校医院ヵ)ニ入り諸国手ノ治療ヲ受ケ……幸ニ其全治ヲ得ルニ至レリ……依テ茲ニ医学修行ノ志ヲ起ス……」と叙述し、高階経徳の好寿院で医学全科を「卒業ス時ニ十五年三月ナリ、依テ群馬県伊勢崎町松本元坦氏ノ家ニ寓シ同氏ノ名ヲ以テ医業ヲ開ケリ」との記述がある。この「松本元坦」については『日本医籍』(1889年刊)等を調べても不明だった。

北海道瀬棚郡瀬棚町(現・久遠郡せたな町)が発行した伝記『萩野吟子』では、1886年(明治19)に受洗し、1890年に志方之善と結婚、夫のキリスト教伝道に伴い1894年に北海道へ移住、志方の病没後、1908年(明治41)に東京市本所区に転居、「萩野」に復籍したと記述している。1909年(明治42)発行の『日本杏林要覧』には、北海道瀬棚郡の欄で「萩野吟子/試験明治18年6月/北海道平民/安政4年生/瀬棚村瀬棚47」、東京市本所区の欄にも「志方ギン/試験18年6月/東京府平民/嘉永4年生/新小梅町1」と掲載されているが、「試験明治18年6月」とは、「医術開業試験及第により明治18年6月医籍登録」の謂である。なお、萩野吟子以前に従来開業履歴により免状を下付された60余名の女性医師については宮下舜一氏が、女性に医術開業試験受験を許可した経緯については三崎裕子氏が、各々第111回、第112回本学会総会での誌上発表で報告されている。